

かながわのみちづくり

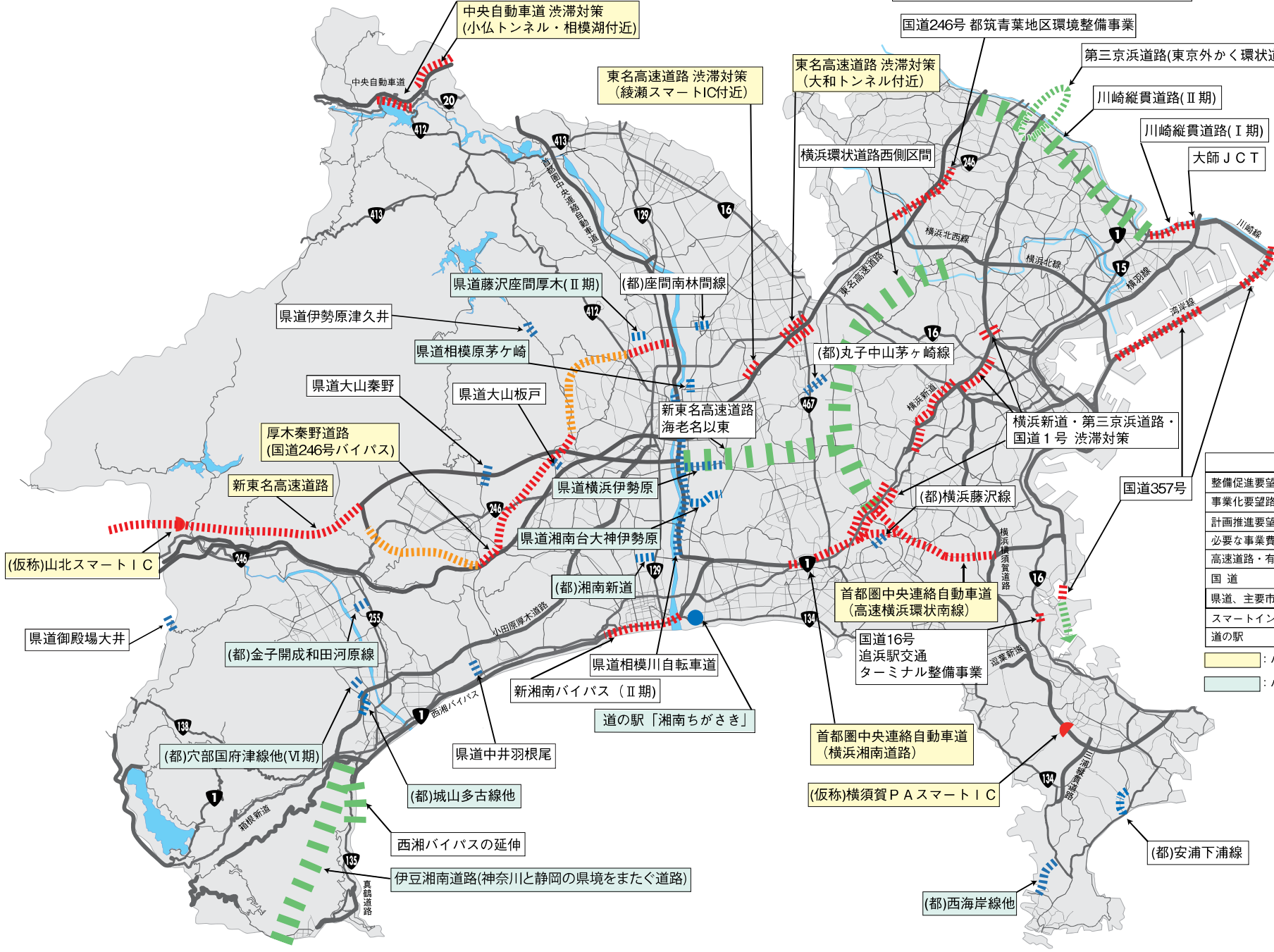
災害に強く、活力と魅力ある県土の実現をめざし

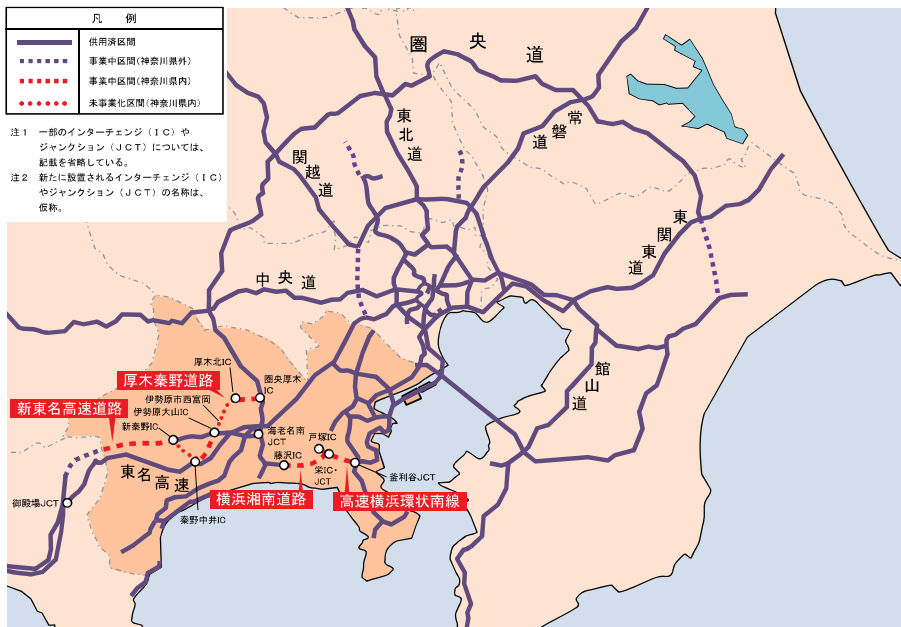
つながるべき道路をつなげていく



新東名高速道路 河内川橋

路線等位置図





首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

圏央道は、都心から約40km～60kmの位置で、東名高速道路などの放射状道路をつなぐ環状道路です。

この道路は、沿線都市間の連絡を強化するほか、都心部へ流入する交通を適切に分散し、道路交通を円滑化することにより、経済活動の活性化、観光地の発展、周辺地域の環境改善等に寄与する重要な道路です。

圏央道の神奈川県内区間は、「さがみ縦貫道路」「横浜湘南道路」「高速横浜環状南線」の3路線で構成されており、このうち、さがみ縦貫道路は平成27年3月に全線が開通しました。

また、平成29年2月の茨城県区間の開通により、現在、圏央道は全体の9割が供用されており、神奈川県では、北関東方面などからの観光客の増加や、沿線地域における企業立地の促進など、多様なストック効果が発揮されています。（P8、10）

こうした効果をさらに高めていくためにも、横浜湘南道路や高速横浜環状南線の早期整備が望まれています。

横浜湘南道路・高速横浜環状南線

横浜湘南道路と高速横浜環状南線は、さがみ縦貫道路など一体となって、横浜の湾岸エリアや三浦半島と湘南・県央地域の連絡を強化する重要な道路です。

横浜湘南道路は（仮称）栄IC・JCTから藤沢ICまでの約7.5kmの区間、高速横浜環状南線は金沢JCTから（仮称）戸塚ICまでの約8.9kmの区間で、現在、工事などが実施されています。



新東名高速道路

新東名高速道路は、首都圏と中京圏を結ぶ大動脈であるとともに、神奈川県内の都市間を結ぶ東西軸を形成する路線です。この道路は、慢性的な交通渋滞に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで、高速性・定時性を確保し、また、地震などによる災害発生時の緊急輸送道路や、東名高速道路の維持管理・更新時の代替路としての役割を果たす重要な道路です。

令和4年4月までに、海老名南JCTから新秦野ICまでの約21kmの区間が開通しました。現在、新秦野ICから新御殿場ICまでの約25kmの区間で工が進められています。

また、一層の物流の効率化を図るための全線6車線化の早期実現や、計画ルートが未定である海老名南JCT以東の計画の具体化を図ることが望まれています。



厚木秦野道路（国道246号バイパス）

厚木秦野道路（国道246号バイパス）は、国道246号の慢性的な交通混雑の緩和を図るとともに、新東名高速道路など一体となって高速道路ネットワークを強化し、地域の活性化に寄与する重要な路線です。

全線延長約29kmのうち、圏央厚木ICから（仮称）厚木北IC、伊勢原市西富岡から秦野中井ICまでの区間約14kmが事業化されており、現在、用地取得や工事が実施されています。



自動車専用道路の渋滞対策

東名高速道路と中央自動車道は、三大都市圏を結ぶ大動脈であるとともに、本県においては、県外に開かれたネットワークを形成する重要な道路です。しかしながら、東名高速道路の大和トンネル付近・綾瀬スマートIC付近や中央自動車道の小仏トンネル付近などでは、交通容量不足等により慢性的な渋滞が発生しています。

こうした中、高速道路ネットワークの機能を最大限発揮させるため、東名高速道路では、令和4年11月までに、大和トンネルを含む区間の拡幅や、横浜町田IC下り線の加速車線の延伸が完成し、運用を開始しており、残る区間については、現在、工事等が進められています。

また、中央自動車道では、小仏トンネル付近の上り線及び相模湖付近の下り線について、付加車線設置による渋滞対策が事業化され、現在、工事等が進められています。

東名高速道路 綾瀬スマートIC付近上り線混雑状況



中央自動車道 小仏トンネル付近上り線混雑状況

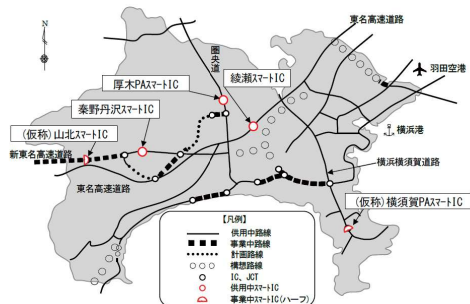


スマートインターチェンジ

スマートインターチェンジは、高速道路の利便性を向上させ、物流の効率化や観光振興のほか、医療機関へのアクセス向上、災害時における物資輸送ルートの確保など、地域の活性化や防災力強化に寄与する施設です。

本県では、令和4年4月までに、厚木PAスマートインターチェンジ、綾瀬スマートインターチェンジ、秦野丹沢スマートインターチェンジが開通し、現在は(仮称)山北スマートインターチェンジ、(仮称)横須賀PAスマートインターチェンジの2箇所スマートインターチェンジ設置に向けた取組が進められています。

県内のスマートIC



厚木PAスマートIC



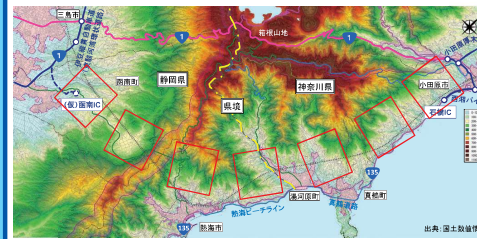
綾瀬スマートIC

伊豆湘南道路(神奈川と静岡の県境をまたぐ道路)

伊豆湘南道路(神奈川と静岡の県境をまたぐ道路)は、東名・新東名高速道路などと一体となって強靱な広域道路ネットワークを形成し、広域周遊観光の促進などの地域経済の活性化に寄与するとともに、災害時の救急救命や救援物資の運搬を支え、人々の命と暮らしを守る役割も担う、「第3の東名」とも言える重要な道路です。

現在、この道路の計画の具体化に向けた取組を進めています。

伊豆湘南道路(神奈川と静岡の県境をまたぐ道路)位置図



県道横浜伊勢原

県道横浜伊勢原は、横浜市を起点とし藤沢市、綾瀬市、海老名市、厚木市を経て伊勢原市の国道246号に至る東西方向を繋ぐ主要幹線道路です。

このうち、用田橋際交差点から東側の区間と、国道129号から西側の区間はすでに整備が完了しており、海老名市域の4車線整備を進めています。

県道横浜伊勢原位置図

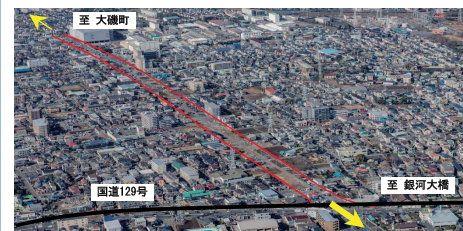


都市計画道路 湘南新道

都市計画道路湘南新道は、湘南地域における東西方向の交流連携の強化を図るとともに、圏央道への接続道路となる、4車線の幹線道路です。

このうち相模川から国道129号までの区間は、平成19年度までに整備が完了しており、現在、その西側に続く区間の整備を進めています。

都市計画道路 湘南新道

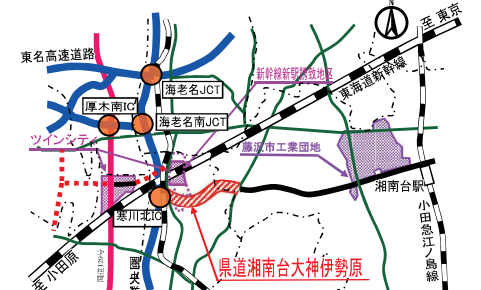


県道湘南台大神伊勢原

県道湘南台大神伊勢原は、湘南地域の北部で新たな東西軸を形成する4車線の幹線道路です。

圏央道の寒川北IC、藤沢市北部の工業団地や東海道新幹線新駅の誘致地区を中心としたツインシティへのアクセス強化を図る道路として、整備を進めています。

県道湘南台大神伊勢原位置図



都市計画道路 西海岸線他

都市計画道路西海岸線は、三浦半島地域の南北軸を形成する幹線道路です。

国道134号などの交通渋滞の緩和を図るとともに、地域経済の活性化に寄与する道路です。



都市計画道路 西海岸線イメージ図

県道藤沢座間厚木(Ⅱ期)

県道藤沢座間厚木は、湘南地域と県央地域を結ぶ幹線道路です。

このうち、厚木市内を東西に連絡するⅡ期区間は、国道129号などの交通混雑の緩和を図るとともに、圏央道の圏央厚木ICへのアクセスを改善する4車線の幹線道路として整備を進めています。

厚木市三田付近高架部整備状況



至 座間市

都市計画道路 城山多古線他

都市計画道路城山多古線は、小田原駅西口を起点とし、小田原市多古の都市計画道路小田原山北線に至る幹線道路です。

沿道に、公共施設等が多数あり、歩行者が多く、朝夕には著しい渋滞が発生することから、終点側の都市計画道路小田原山北線を一体整備することで、県西地域における道路ネットワークを強化し、交通の円滑化や歩行者の安全を図る道路として、整備を進めています。

小田原市多古付近トンネル部整備状況

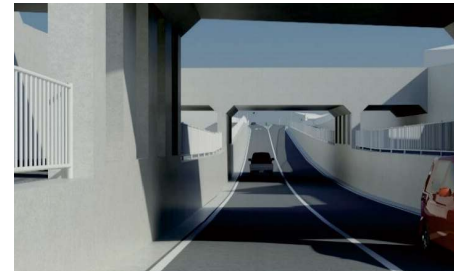


都市計画道路 金子開成和田河原線

都市計画道路金子開成和田河原線は、大井町と隣接する開成町や、南足柄市の都市計画道路和田河原開成大井線に接続し、3市町を東西に貫く、重要な幹線道路です。

JR御殿場線との交差箇所は立体化する計画であり、県西地域の交通渋滞の緩和や防災機能を強化するとともに、地域経済の活性化に寄与する道路として、整備を進めています。

大井町金子付近イメージ図



県道相模原茅ヶ崎 (上郷立体)

県道相模原茅ヶ崎は、相模川の東側を南北に結ぶ4車線の幹線道路です。

JR相模線及び県道横浜厚木との交差箇所を立体化する計画であり、海老名駅周辺地域の交通円滑化や圏央道の海老名ICへのアクセス強化を図るもので、用地取得等を進めています。

海老名市上郷付近イメージ図

至 相模原市



至 茅ヶ崎市

都市計画道路 穴部国府津線他(Ⅵ期)

都市計画道路穴部国府津線は、地域間の連携強化や小田原市中心部の混雑緩和を図るため、小田原市府川の県道小田原山北から、国道255号を経て、小田原市国府津の国道1号付近を結ぶ幹線道路です。

Ⅵ期区間は、狩川を渡河し、伊豆箱根鉄道大雄山線及び小田急小田原線の2つの鉄道を高架橋で横断する計画であり、用地取得等を進めています。

小田急小田原線高架橋イメージ図



道の駅

道の駅は、道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供及び地域の振興に寄与することを目的とした施設であり、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果が期待される地方創生の拠点となっています。

県内では令和2年6月に、県内4番目の道の駅となる「足柄・金太郎のふるさと」が開所し、さらに「湘南ちがさき」においては、開所に向け事業が進められています。

神奈川県は、道の駅の設定・運営に取り組む市町村を支援し、整備を促進しています。

県内の道の駅位置図



【凡例】
★ 道の駅(整備中)
★ 道の駅(開所済)

道の駅「足柄・金太郎のふるさと」



道の駅「湘南ちがさき」施設(イメージ)



国土強靱化（老朽化・防災）対策

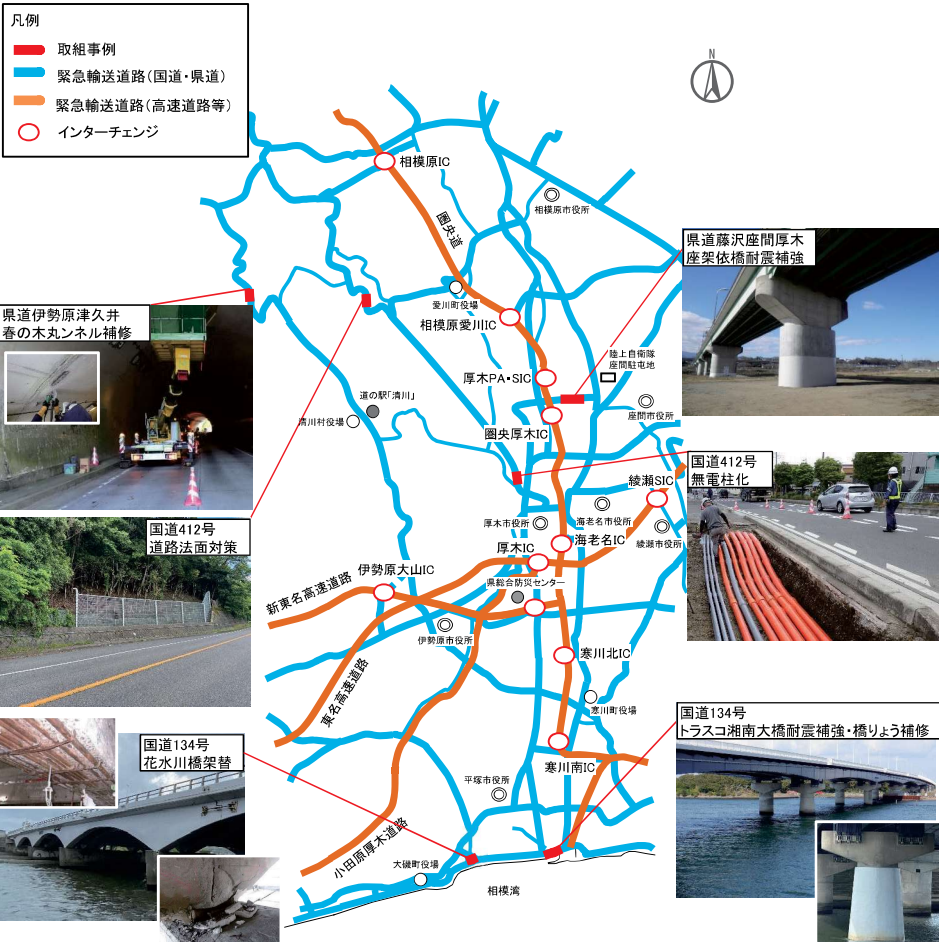
首都直下地震などの大規模災害の発生時に、救命救急活動や復旧活動等を支え、物資等の輸送を円滑かつ確実に行うために、緊急輸送道路の老朽化、防災対策を優先して進めています。

特に、近年の激甚化する災害に対応するため、政府の「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づき、災害時に国民経済・生活を支える道路の機能を維持できるよう、橋りょうの耐震補強等の防災対策を集中的に進めています。

県央・湘南地区における取組事例

東名高速道路や圏央道は、広域的な道路ネットワークを形成し、災害時には、全国からの支援物資の輸送など、重要な役割を担う道路です。

これらの道路と接続する国道や県道において、橋りょうの耐震補強、道路法面对策や無電柱化等を実施しています。



道路整備のストック効果

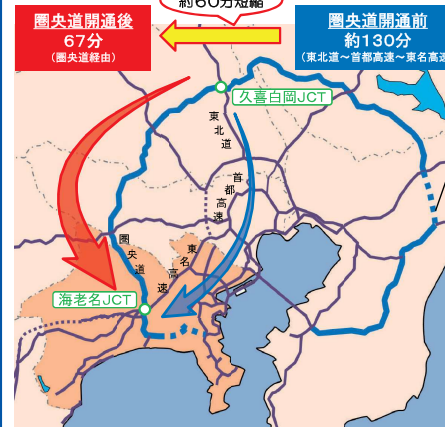
道路の整備により、移動時間の短縮や渋滞緩和、沿線地域の観光振興や企業活動の活性化など、様々なストック効果が発揮されています。

ストック効果…整備された社会資本が機能することで、整備直後から継続的かつ中長期的にわたって得られる効果

圏央道（国土交通省・NEXCO東日本・NEXCO中日本）

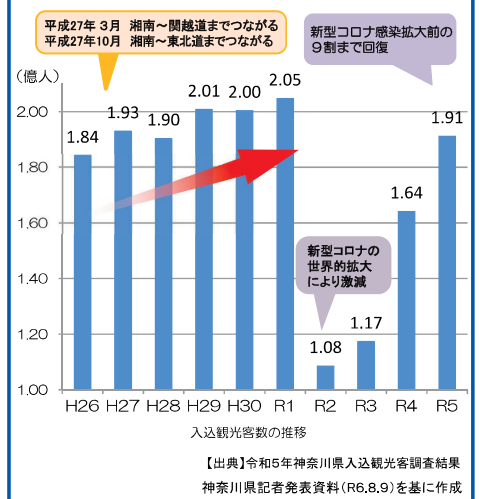
北関東からの移動時間が半減

● 久喜白岡JCTから海老名JCTまでの移動時間が約60分短縮

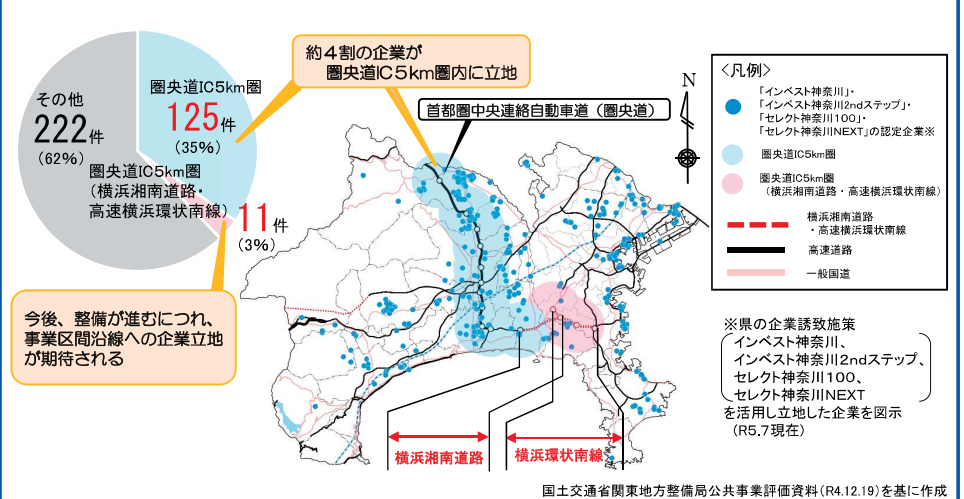


所要時間
都心経由ルート：H22センサス(混雑時旅行速度)による最短時間ルートの所要時間
圏央道開通ルート：NEXCOデータによる朝のピーク時(7時～9時)平均値
国土交通省・東日本高速道路株式会社 記者発表資料(H27.11.11)を基に作成

神奈川県入込観光客数は増加傾向 平成29年から3年連続で2億人を突破 令和5年は令和元年の9割まで回復



圏央道など自動車専用道路の沿線を中心に工場や研究施設が立地



今後、整備が進むにつれ、事業区間沿線への企業立地が期待される

凡例

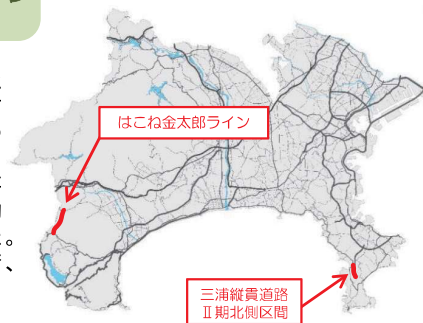
- 「インベスト神奈川」・「インベスト神奈川2ndステップ」・「セレクト神奈川100」・「セレクト神奈川NEXT」の認定企業※
- 圏央道IC5km圏
- 圏央道IC5km圏 (横浜湘南道路・高速横浜環状南線)
- 横浜湘南道路
- 高速横浜環状南線
- 高速道路
- 一般国道

※県の企業誘致施策
インベスト神奈川、インベスト神奈川2ndステップ、セレクト神奈川100、セレクト神奈川NEXTを活用し立地した企業を图示(R5.7現在)

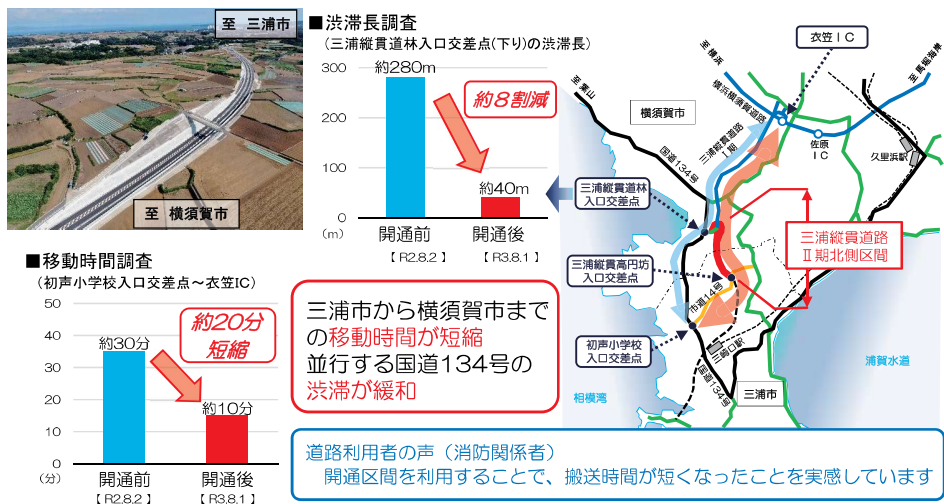
三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間、はこね金太郎ライン (神奈川県)

三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間(約1.9km)は、令和2年8月に供用を開始し、Ⅰ期区間とあわせて三浦市域と横須賀市域が結ばれたことにより、移動時間の短縮や、周辺道路の渋滞緩和が図られました。

はこね金太郎ライン(県道矢倉沢仙石原)は、既存の林道を活用し、南足柄市と箱根町を結ぶ延長約10.9kmの道路で、令和3年4月に供用を開始しました。県西地域に新たな道路ネットワークが誕生したことで、観光地へのアクセスが向上しました。



三浦縦貫道路Ⅱ期北側区間の整備効果(移動時間の短縮、渋滞緩和)



はこね金太郎ラインの整備効果(移動時間の短縮)



写真提供

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所

東日本高速道路株式会社

中日本高速道路株式会社

首都高速道路株式会社

茅ヶ崎市

発行元

神奈川県道路利用者会議

道路整備促進期成同盟会神奈川県協議会

神奈川県都市計画街路事業促進協議会

首都圏中央連絡道路建設促進期成同盟会

新東名高速道路建設促進期成同盟会

神奈川県東部地区高速道路網整備促進協議会

問合せ先

神奈川県県土整備局道路部道路企画課

〒231-8588

神奈川県横浜市中区日本大通 1

T E L 045-210-6406